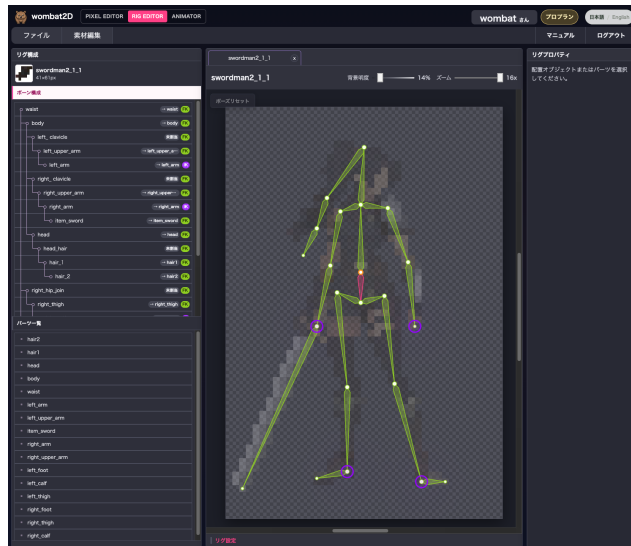


## ■ボーンと関節を設定できる「RIG EDITOR」

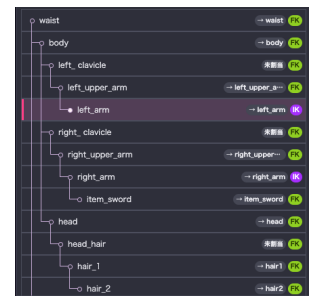
RIG EDITORは、人型のキャラクターや動物、モンスターなど、関節を持つキャラクターを動かすための骨格を設定する機能です。腕や脚、胴体、頭などのパーツにボーンを組み込み、関節のつながりや可動範囲を設定することで、キャラクターの構造に沿った自然なポーズや動きを作りやすくなります。また手先や足先の位置から関節の曲がり方を自動計算するIKにも対応しました。例えば、足先の位置を動かすだけで膝の曲がり方が自動的に調整されるため、複数の関節を一つずつ操作することなく、歩行や走行などの動作を効率よく制作できます。関節ごとに曲がる方向や角度を制限することもでき、人体や動物の構造から外れた不自然な動きを防ぎながら、より自然なアニメーションを制作できます。



RIG EDITOR(リグエディタ画面)



角度調整



ボーンの親子関係とIK設定

■今回のアップデートにより、wombat2Dでは次の制作工程を一つのサービス上で行えるようになりました。

- ・PIXEL EDITORでドット絵を制作
- ・RIG EDITORで、ドット絵にボーン、関節のつながり、可動範囲などを設定
- ・ANIMATORで、リグやドット絵を使い、タイムライン上にキーフレームを配置してアニメーションを制作

それぞれの機能は独立しているだけでなく、同じ制作データを活用しながら連携します。

ドット絵を修正したい場合はPIXEL EDITORに戻って描き直し、設定済みのリグを活かしたままアニメーション制作を続けることも可能です。複数のソフトを使い分けたり、制作工程ごとにデータを変換したりする手間を減らし、ゲーム素材の制作をより身近で効率的なものにします。

## ■すべて基本無料

PIXEL EDITOR、RIG EDITOR、ANIMATORの基本機能は、すべて無料で利用できます。

より高い解像度の素材や、長いアニメーションを制作する場合は、有料のProプランを利用できます。

ProプランはPIXEL EDITOR、RIG EDITOR、ANIMATORのすべてに共通して適用されるため、機能ごとに加入する必要はありません。

## ■wombat2Dについて

wombat2Dは、株式会社田村技術研究所が開発・運営する、ブラウザ上で利用できるドット絵制作ツールです。

AIが生成したドット絵風画像を、指定した解像度に合わせて実用的なドット絵へ整える「Pixel Refine」を中心に、減色、色統合、スプライトシート制作、基本的な描画・編集など、ゲーム素材の制作を支援する機能を提供しています。

今回追加されたRIG EDITORとANIMATORにより、ドット絵の作画からアニメーション制作までを一貫して行える制作環境へと進化しました。

サービスURL:<https://wombat2d.com/>

## ■提供会社



会社名:(株)田村技術研究所

所在地:東京都新宿区天神町7-11

代表者: 田村隆彦

事業内容:システム開発、IoTシステム開発

URL:<https://tamura-giken.jp>

## ■サービス

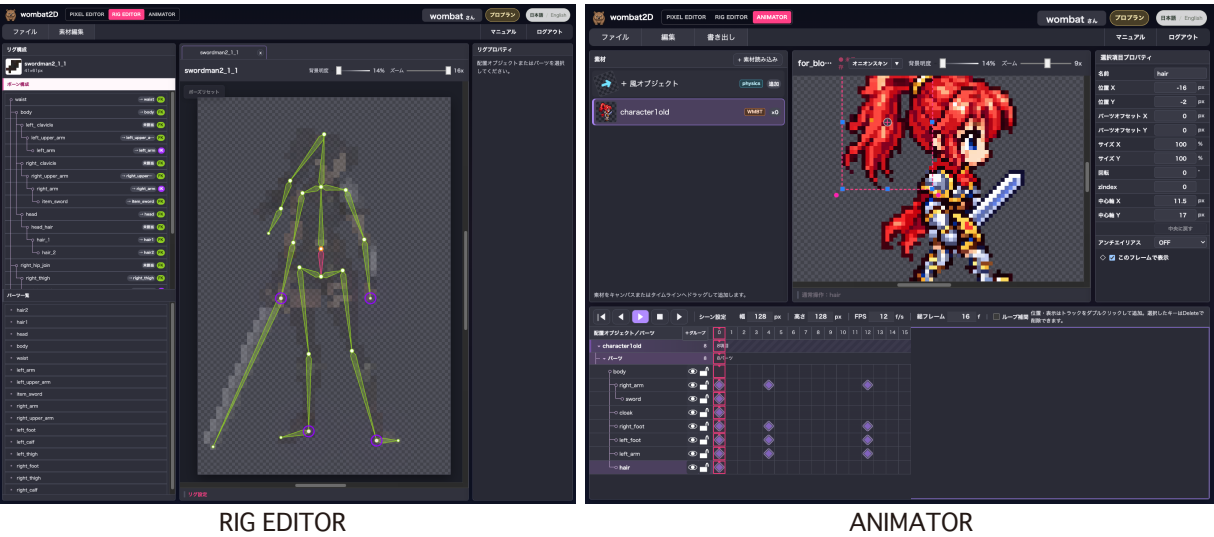


サービス名: wombat2D (ウォンバット2D)

URL : <https://wombat2d.com>

# AI生成画像のピクセル乱れを補正するドット絵エディタ「wombat2D」に 本格アニメーション制作機能を追加

ボーンとIKに対応した「RIG EDITOR」と、キーフレームアニメーションを制作できる「ANIMATOR」を新たに公開



<https://wombat2d.com>

株式会社田村技術研究所は、ドット絵制作ツール「wombat2D」において、大規模アップデートを実施しました。今回のアップデートでは、キャラクターにボーンを設定する「RIG EDITOR」と、キーフレームアニメーションを制作する「ANIMATOR」を新たに追加しました。これにより、従来の「PIXEL EDITOR」でドット絵を描くだけでなく、キャラクターの骨格や関節を設定し、歩く、走る、攻撃するといった動きを付けるところまで、wombat2D上で一貫して制作できるようになりました。

### ■ドット絵を自由に動かせる「ANIMATOR」

ANIMATORは、ドット絵のキーフレームアニメーションを本格的に制作できる機能です。PIXEL EDITORで制作したキャラクターやゲーム素材を読み込み、位置、回転、拡大・縮小、表示・非表示などの変化をタイムライン上に設定できます。動きの要点となるフレームを指定することで、その間の動きを補間し、滑らかなアニメーションを制作できます。従来のドット絵アニメーションでは、動きに合わせて何枚もの絵を描き分ける必要がありました。ANIMATORでは、制作したドット絵を活用しながら動きを付けられるため、作画の負担を抑えつつ、より多彩な表現に挑戦できます。

